

令和 2 年度 学校関係者評価委員の評価結果

(評価委員 7 名による 5 段階評価の平均値とコメント抜粋)

新宿情報ビジネス専門学校

事務局担当 教務課長 篠田 賢治

委員会開催日 令和 2 年 9 月 11 日

※新型コロナウイルス感染症予防対策として会議開催の困難につき、令和 2 年 9 月 11 日付で委員全員からの評価報告書を郵送いただいた集計結果となります。

学校関係者評価委員

名前	所属
嶋村 節二	株式会社ビアンシステムズ 代表取締役
	顧問税理士 (地元の中野区在住)
	元・都立高校国語教諭/進路指導主事
	企業向けの講演活動と執筆業
	株式会社ビアンシステムズ 技術顧問 (学識経験者・工学博士)
	株式会社ビアンシステムズ 技術顧問 (学識経験者・博士(工学))
	2007 年度卒業生

新宿情報ビジネス専門学校

項目	個別評価
重点目標 1 学校関係者評価実施体制の確立	4.7 (33/7)
学校の計画	4.7 (33/7)
取組状況	4.7 (33/7)
<p>【評価委員のコメント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 十分な計画と取り組みの下に専門学校等評価基準 Ver.4.0 に準拠して年度ごとに改善を重ねている。 ● 国の施策や環境変化への対応は十分である。教育自体の目的との連動も更に深められたい。 ● 定期的な評価はさらなる質的向上に直結すると期待できる。ただ、学校自身の理想については若干薄目な気がする。 ● 定めた計画に対する責任的な実行とチェックは充分に行われている。 ● 「講師も設備もハイレベルを目指す」というテーマ通り、実務経験豊富な教授経験者を講師に迎えている。 ● 演習に力点を置くのは実践的人材育成に向けて効果的だと考えられる。 ● 開発方面の学習に注力しようと体制充実を図っている。留学生のモチベーションにも配慮した目標設定が的確である。 ● 企業にとってより幅広い問題解決を担う人材の育成を「開発演習」について、今後の展開に大いに期待したい。 ● IT 企業代表者の参画を得た事は評価できる。国際感覚の養成のための施策が必要と考える。 ● 日本人学生と留学生の人数アンバランスに対する施策が必要と考える。 ● 学則を改訂し、職業実践専門課程の文部科学大臣認定学科の申請準備を着実に進めている。 ● 開発方面の教育に重点を置く姿勢は結果に時間を要するかもしれないが、学校全体の活性化に貢献しているのは間違いない。 ● 外部からの意見を積極的に傾聴し、バランスの良い学校経営に活かしている。委員の人選も多彩で、今後にも期待できる。 ● 常に目的と目標を意識し、取り組みに新しい要素を加えてゆくことで、学生だけでなく教職員の動機付けにも熱心である。 ● IT 企業代表者の参画を得た事は評価できる。さらに外国人材受け入れ企業（特に情報）からの参画を求めているどうか。 ● 本校4月にはじまった外国人材受け入れ制度の影響を調査する必要はないでしょうか。 ● 平成28年より注力している職業実践専門課程の文部大臣の認定取得に期待。 ● 「学働遊同」の勧めを掲げ、視野が広く自分と違う者への包容力・理解力に富んだ人材を育てようとしている点はブレていない。 ● 高等教育の就学支援新制度の体制構築と、コロナ対策のバランスに留意した上で、年度ごとのステップも考慮されている。 ● 新型コロナが猛威を振った東京都にあって、適切かつ先手を打った対処で重点目標の実現に最善を尽くしていると言える。 	

- 社会生活の変革を見すえた目標の設定が今後必要かも。
- コロナ対策も十分に行われている。
- 前年の計画が持続的に行われている。
- 新型コロナウイルスの感染が長期化するようであれば、遠隔授業の体制をととのえる必要があります。
- 新型コロナウイルスの流行にともなう支援制度の導入と留学生数の変動を注視する必要があります。
- 高等教育の修学支援新制度対象校の認定を目標としたことは大変評価できます。
- 選任方法は満足できます。
- 修学支援新制度対象校認定の取り組み、コロナウイルス予防対策とそのため環境整備の取り組みは大変評価できます。
- 高等教育の修学支援新制度の実践に期待。

評価基準 1 教育理念・目的・育成人材像	
評価項目（中項目）	4.9 (34/7)

- 【評価委員のコメント】**
- 職業技術の高度化は、どの分野においても時代の流れで、技術取得のための支援はますます重要。
 - 学校設立当初から教育理念・目的・育成人材像は確立されているので、その成果は今後に期待。
 - 昨今の環境変化を適切に受け止め、社会に寄与できる理念・目的・育成人材像を掲げている。
 - 「スマホアプリ開発課題演習」による職業教育の実践という時代に即した教育を行なっている。
 - 個性化というキーワードと企業のニーズ、そして学生のモチベーション維持をいかに並立させ相乗効果を生むか、今後は楽しみ。
 - ITからICTへのシフトが単なるキーワードの置き換えにとどまらないよう、Android アプリ開発等を含め期待している。
 - 留学生に対する演習型教育の充実が課題である。
 - 学生の経済的、職業的自立支援システムを適用した人材育成の効果は期待できる。
 - 学生の発表の機会を設けることは、教育目的である職業社会人を育成する上で有効的である。
 - 日本人学生と留学生が互いの特質や強みを理解・尊重し、時に競い合い時に親しみ合う中で、実力と協調性を獲得してほしい。
 - 技能実習生の受け入れという時代的要請との関連も今後視野に入れるか？
 - 留学生に対する演習型教育が充実してきたことを評価します。
 - ICT プロフェッショナルに向けての更なるステップアップが求められる。
 - 高等教育の就学支援制度への受理実績は、学生にとって大きな就学動機である。コロナ禍による在宅学習は、自律と ICT 実践の両面で人材育成に有効。
 - 経済同友会提唱とある「学働遊合」の中身を知りたい。
 - ICT プロフェッショナルに向けての更なるステップアップを持続的に取り組んでいる。
 - 新型コロナウイルスの感染拡大にともなう応募者層の変化を注視する必要があります。
 - 教育理念や目的は大変満足できますし、プログラミングコンテストを目標の 1 つにしていること

は、大変良いことと思います。

評価基準 2 学校運営

4.7 (33/7)

評価項目 (中項目)

【評価委員のコメント】

- スタッフの間の意思疎通が教育方針や運営の実践面のカギになるのでしょうか。コーチング研修も有効な一方法だと思います。
- 少人数制でトップダウンの効率経営から、経営スタッフの若返りを図るため、ボトムアップに移行しスタッフ教職員一人ひとりの戦力化を目指している。
- 全体を総括的にとらえるのではなく、複数要素の相乗効果を生むための適切な分析・設定・実施が成されている。
- 毎日の朝礼で前日の反省とその日の優先すべき業務予定を話し合っている。
- 組織の強化とともに、教える側、運営する側、両面のバランスのよい拡充を図っている。役割分担に対する考え方もよい。
- 学生への充実した教育を志向する上で、経営・講師・職員の連携と行動指針の共有は極めて重要。その辺りを意識して、常に自己改革を続けている。
- スタッフ教職員の管理は適切に行なわれているが、非常勤講師への適切な情報開示をお願いしたい。
- 教職員用サイトでの情報共有は作業の時間短縮を図るうえで効果的と思われるため、有効活用を期待したい。
- 本校の教育目的を意識した組織作りと明確な役割分担、ダイナミックな相互連携を志向している。組織刷新の効果が表れる今後、更なる発展を期待する。
- 引き続き、非常勤講師への適切な情報開示をお願いいたしたいと思います。
- 非常勤講師の増員・教職員の明確な役割を提示することにより、円滑な学校運営を期待する。
- 適切に運営されていると思われる。
- 経営陣・講師・職員の連携が相変わらず素晴らしい。育成する人物像を皆が共有しているからこそ、目的実現に向けた行動が適時適切に行えている。
- 適切に実施されている。
- コロナ禍への対応が遅滞なく行われた事は評価できます。非常勤講師に対して「学修成果」の適切なフィードバックをお願いいたします。
- 卒業生がスタッフ教職員として参加、活躍されていることは大変評価できます。修学支援新制度対象校となったことも大変評価できます。
- 少数精鋭のスタッフ教職員の尽力により学校運営が良好。引き続き、ボトムアップ方式にも期待する。

評価基準 3 教育活動

4.7 (33/7)

評価項目 (中項目)

【評価委員のコメント】

- 職業委託訓練職業教育レベルが向上したので、今後は専門課程の職業教育に活用を期待したい。
- 職業委託訓練で多様な問題解決に取り組み、質的にも職業教育レベルが向上したので、そのノウハウを専門課程の職業教育に活用している。
- 内部で定める方向性のみならず、社会からの要求に真摯に応え、教育活動の本質を果たす実績を上げている。
- 資格取得者名を掲示している掲示板について、昨年拝見し感じたことなのですが、もう少し目に留まる工夫をしてもよいのでは。目を引く掲示にすれば、他の学生への意欲にもつながるかも。
- 企業の即戦力たる人材の育成とともに、単位の互換性など、学生たちのモチベーションに配慮したカリキュラム・教育体制になっている。
- 学びと働きを両立させる独自のデュアルシステムは、もう一つのキーワードである「プロフェッショナル」の育成にも効果的であると期待される。
- 外国人に対して、より適切な資格を模索する必要があると考える。
- 入学前後の適職診断だけでなく、継続して診断するのは有効と考える。
- 学生への動機づけの方法に具体性が欲しい。
- アクティブ・ラーニングも有効的かと思われる。
- 企業が求める実力の育成は、本人の学習意欲あってこそだと思う。目的を明確にした上で適宜目先を変えつつ、学生に刺激と成功体験を与え続けてほしい。
- 2部コースのカリキュラムが充実した事は評価できます。その効果を把握する事が課題と考えます。
- 学園祭でのプログラミングコンテストの定例化は、2年次学生の活躍の場となるので、学習意欲の向上に期待。
- ICTプロフェッショナルの更なるステップアップが必要。
- 時代が求めるスキルと、時代を超えて求められる能力。その両方を限られた期間で学生に教授し、経験を積ませることで学生自身の中から引き出している。
- コロナ禍による産業社会の影響一つとっても、目標や方針変更が予想され、柔軟性が要求されると思われる。
- 講師数を増やし、留学生に対する演習科目を充実させたことは大変に評価できます。
- 学生に対する各種支援活動が充実して行われており、成果がでていていると思います。
- PythonによるAIプログラミング講座を新設し、時代に即した教育を行っている。
- 遠隔授業に関しての外部のオンラインセミナーに参加するなど、教員研修も行っている。

評価基準 4 学修成果

4.6 (32/7)

評価項目 (中項目)

【評価委員のコメント】

- 適職診断やカウンセリング体制の整備は学習者のモチベーションを高めるには必須の項目である。
- 日本版デュアルシステムやキャリアデザイン教育で就職率は良好である。
- ともしれば資格を取得させればよい、就職させればよいというように偏りがちである筈だが、視野

を広く保ち、学生全体の向上を目指す活動をしている。

- 資格取得の意味を認識させ、資格取得という目標を立てることにより学習意欲を高めること、達成したときの喜びがその後の自信へと結びつくことを期待したいです。
- 職業訓練という短期集中型の教育体制を築いた経験をカリキュラムやシラバスの構成に有効に活かしている。モチベーションに対する配慮も充分である。
- 在校生の就職に対する意欲を向上させるには、多面的アプローチが必要とされそう。キャリアコンもより踏み込んだ内容に進化してゆく必要があるかも。
- 適職診断とのかねあいからすれば就職先企業に対するフォローは切り離せない。
- 資格マスター努力賞の制定・卒業式での表彰は、資格取得の意欲を高めるのに効果的と思われる。
- 何者になりたいか、どうすればなれるかを学生個々人がイメージすることが成果に直結すると感じる。卒業生もロールモデルとして今以上に活用したい。
- 4-13に関してキャリアデザインの発想は、拡大すれば、ライフデザインそのものであろう。重いテーマであると思う。
- 資格取得実績や就職実績、求人企業リスト等を学校案内やホームページに開示してはいかがかと思えます。
- 多業種の新たな求人企業が増えているということは、学生にとって選択肢が広がり、就職率アップに期待する。
- キャリアデザインの更なる強化が必要。
- 学習は実践を踏んでこそ生きるという一貫した考えのもと、プログラムコンテスト等による学生自身の自発・自覚・自立を促す学習機会の提供が活発に行えている。
- 職業と資格に関する学習は、重要と考える。
- 引き続き、資格取得実績や就職実績のフォローと評価が必要と考えます。
- 学生に対する各種支援活動が充実しており、資格取得の質・量ともに向上していると思えます。また、求人企業も増えているとのこと、大変評価できます。
- 情報系はもとより、ビジネス系の資格対策講座を設け、学生個々の興味・適性に考慮したカリキュラムの改善を図っている。

評価基準5 学生支援

4.9 (34/7)

評価項目 (中項目)

【評価委員のコメント】

- 入学前の体験入学で適職診断を実施したり、学費減免特待生制度の対象者を拡充したりして学生支援体制を強化している。
- 学生にとって金銭面の負担軽減や就職支援は有用なものだが、より広い視野・発想で、多面的・総合的な支援を期待したい。
- 中途退学者回避のためにきめ細やかな対応に努めている。入学後も他学科への編入学を可能にするなど柔軟な対応を可能にしている。
- 自分自身を知り、役立ち方を模索する学生達を支援する態勢づくりが充分になされている。精神面のみならず、経済面の支援も考慮されている。

- 学習内容の充実のみならず、環境面、精神的なケア、経済的な支援等、複合的・多重的に学生を支援してゆくことが明確に意識されている。
- きめ細かくやられていると評価します。
- 情報社会にあってはスキルアップは必須と考えられる。システム化が必要か。
- 学生相談に関する体制が細やかに整備されている。
- 自立の3要素のうち、学校は経済的自立と社会的自立は支援しやすいが、学生の精神的自立の適切な支援は難しい。そこを本校の強みにできればと思う。
- きめ細かく進路指導が行われている事を評価します。
- 学生が相談しやすい環境を整えている。企業説明会参加の誘導など細やかに行っている。
- 就職活動に向けて学校側の対策強化が求められる。
- 新型コロナ環境下での三密回避というお題目に留まらず、学生達自身の体調や意欲状況、事情などに配慮したきめ細やかな支援が行われている。
- 就職への働きかけは学習意欲に直結する点で大切。
- コロナ時代に合わせた学生支援の強化が求められる。
- コロナ対応を含めてきめ細やかな指導が行われていると評価します。
- 学生が抱えている問題に対する相談・支援体制が整っており、良く実践されていると思います。
- 学生の毎月の出席状況の連絡の他、必要に応じた保護者への連絡を迅速に的確に行っている。

評価基準6 教育環境

4.4 (31/7)

評価項目 (中項目)

【評価委員のコメント】

- 午前に学び、午後から働ける日本版デュアルシステムのモデル校。校内スピーチコンテストは日本人学生と外国人留学生の交流で国際感覚の養成に努めている。
- 前年同様、安全性・利便性への配慮は行き届いている。分進秒歩を評される ICT 分野だけに技術革新への適切かつ素早い対応を今後も期待する。
- 「IT」→「ICT」のシフトを考えた場合、LAN というハードウェアだけでなく、ソフトウェア面の更なる充実が望まれる。その辺りを今後の取り組みに期待したい。
- 情報系専門学校における設備・環境は PC やネットワークもだが、非情報インフラの充実も大きな要素となる。その点についても考慮・対応されている。
- 教育設備は充実している。
- コンピュータの新機種の入替えも行なわれ、実習に不可欠な設備を十分に整えている。
- ICT の C : Communication は、通信の意味であるが、個々人の自己表現・意思疎通のスキルとしても捉え、それらが自然に育つ環境作りも行っている。
- 教育設備の充実が図られている事を評価します。
- ハードウェア面での環境整備は十分に整えられているので、ソフトウェア面での充実を期待したい。
- インターンシップ、産学連携の強化は必要と思われる。
- コロナウイルス感染防止に配慮した学習環境整備と教育機器の充実のバランスを考慮し、施設の有

<p>効性を最大化する設備投資を行っている」と評価できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 非常時の対応が速く、休校中に措置したことは高く評価できる。 ● 教育設置は充実しています。コロナ対策として遠隔授業への対応が望まれます。 ● 十分な対応がなされていると思います。教育におけるデジタルトランスフォーメーションの検討をさらに進められることを期待します。 ● 施設設備の新型コロナウイルス感染症予防を隔々まで実施している上、きめ細やかな配慮も行っている。 	
<p>評価基準 7 学生の募集と受け入れ</p>	<p>4.3 (30/7)</p>
<p>評価項目 (中項目)</p>	
<p>【評価委員のコメント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 学校案内はとかく受信者側の情報にかたよりがちですが、受信側の視点は大切だと思います。実際に難しいのは後者と思われませんが。 ● 大学全入時代を迎え、東京都の高校新卒者の 64%が大学へ進学。専門学校は高校既卒者や大学生・社会人と留学生の受け入れで特色ある職業教育を目指す。 ● 学校としての価値を高めるとともに、他との差別化を図り、生徒本人の入学後の満足度を重視し、質向上を志向している。 ● 日本人学生の取り込み手段として既存の Twitter の活用が有効と思われる。詳しい内容を記入しなくても、更新したサイトに飛んでもらうように URL を貼るだけでも効果的なのではないか。 ● 学校経営と学生主体の教育という両要素を適切にバランスさせている。意欲付けの方法も、個々の学生の状況や性格・志向に沿ったものを志向している。 ● 1部コースと2部コース学生の人数アンバランスの是正が課題。共学化の一層の推進はどうか。 ● 日本人学生が相対的に少ない背景について職業観、情報社会の底流に変化が生じているのか、分析が必要。 ● 他校との差別化も特色もあるので、応募につながる学校案内やオープンキャンパスの内容を期待したい。 ● 「何を学びたい学生に来てほしいか」は、学校が常に意識し、自問し続けるべきだと思う。志ある学生が学びやすい額の学納金を保持する努力も素晴らしい。 ● 2部コースの学生受け入れ数が年度により異なることが気になります。今年度は2クラス分、昨年度は1クラス分、その前年度は2クラス分と記憶しています。 ● 有料検索サイト（学生向け進学情報ポータルサイト）での学生募集は大変有効と思うので引き続き活用を期待する。 ● 日本人学生受入れ増大にむけてなんらかの対策が必要と思われる。 ● 専門学校が学生に何を教えるべきか、その究極の方向は、自立できる役立ち方を示唆し、役立とうとする姿勢と役に立つ実力を育むことであろう。当校は、その教育理念を貫いている。 ● キャリアカウンセリングは不確実な時代にあって、いい指標になると思う。 ● 他の専門学校との募集に関しての差別化の強化が求められる。 ● コロナ禍に起因すると思われる応募学生数の減少は大変気掛かりです。留学生の受け入れ上限 50% 	

<p>化も気掛かりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 募集、選考、学費のすべての面で適正に行われていると判断します。 ● 学生募集に有効な学生向け進学情報ポータルサイトの有効活用、SNS での発信の努力をしている。 	
評価基準 8 財務	5.0 (35/7)
評価項目 (中項目)	
<p>【評価委員のコメント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 少子化や社会環境の変化に対応した経営形態の方向性は多角経営なのでしょう。 ● 東京都認可の個人立専門学校（専修学校専門課程）を無借金経営で運営している。 ● ディアルシステムという自立独立を促す学習態度に関する指針は、学校のみならず学生自身にもプラスに働く筈である。 ● 学生の学費負担を年 8 8 万円に抑える一方、無借金経営を継続させている。揺るぎない教育理念の設定と明確な中長期ビジョンの成果と、高く評価できる。 ● 世情や各種法令、企業と学生双方のニーズ等の変化に柔軟かつ先手を打つ形で対応し、長年にわたり健全な財務状況を実現している。 ● 健全と判断します。 ● 対新型コロナに対する短期的な備えだけでなく、学生の生涯キャリアのデザインを提唱・啓蒙していくために必要な健全な財務状況を維持している。 ● 無借金経営継続中とのこと、大変すばらしいと思います。 ● 堅実な経営を長期にわたって行っている。 	
評価基準 9 法務等の遵守	5.0 (35/7)
評価項目 (中項目)	
<p>【評価委員のコメント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 特色ある教育システムをいかに多くの人に流布させられるか、その方向が鍵のように思います。 ● 平成 20 年から自己評価の実施体制を改善・整備しているので、今年度は学校関係者の実施体制の整備・確立を目指している。 ● チェック機能が健全に作用するには、組織の在り方と個々人の意識が重要である。コーチング的な手法も取り入れ、優れた姿勢であると評価する。 ● 個人情報の取扱いを含め、目的→目標→体制→実施→検証の順序が徹底されている。それをする／しない意味を皆が共有する上での有効性が期待できる。 ● 学校内で行われている授業・指導・管理の継続的な情報公開・透明化は、本学の組織浄化のみならず個々人の成長、意識改革に大きく貢献している。 ● 十分に対応しています。 ● 学生や教員の個人情報に留まらず、学校主催の各種委員会の報告においても、委員各位の個人情報保護に最善を尽くす等、法令遵守の姿勢を貫いている。 ● 個人情報の管理は、日々進化する情報社会の変化を前に難しいのでは？ ● コロナ禍の非常時にあっても適切に行われていると判断します。 	

<ul style="list-style-type: none"> ● 評価制度開始の H14 から現在まで適性校を継続してのこと、大変すばらしいと思います。 ● 「適性校以外」の通知を受け、迅速に適切な対策を講じている。 	
評価基準 10 社会貢献・地域貢献	4.9 (34/7)
評価項目（中項目）	
<p>【評価委員のコメント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 平成 11 年以来、離職者等再就職訓練などの付帯教育事業で 20 歳代から 60 歳くらいまでの離職者約 1,100 名の職業訓練と再就職支援を実施し、社会貢献並びに地域貢献に寄与している。 ● ともすれば己の利益のみ追求しがちな中で、地域や社会への支援の視座を失わずにいる。より新しい発想の規格も期待する。 ● 若年者への教育中心から、生涯教育や現就業者／離職者の再教育等へと守備範囲が広がりつつある。視野を広く持つことで、より大きな社会貢献が期待できる。 ● 学生の選択肢が広がるよう実習訓練先のバラエティあるものへの取り組みを期待したい。 ● 留学生と地域のつながりを強化しようとする努力がみられる。 ● 学校が自己完結する形での教育で成果を得られた時代から、外部団体や地域・異分野の個人との役割分担・相互貢献も望まれる時代へのシフトを、10 年以上前から先取りしている。 ● 適切に行われていると判断します。 ● 行政や広報機関との連携実績が多くあるので、今後も期待したい。 ● 社会を知るうえでボランティア活動は重要と思われるので一層の努力が必要と思われる。 ● 他と同一・類似であることは競争を生むが、社会に役立つ「異質さの創出」は共栄につながる。外国人学生受け入れ等の独自性は、社会・地域への貢献を十分に果たしていると評価できる。 ● 日本人学生と各国からの留学生が協力して作りあげる学園祭は、とても良い国際交流になっている。 	